

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172600609		
法人名	(有)ニフコ		
事業所名	グループホーム 田舎		
所在地	岐阜県揖斐郡池田町沓井603		
自己評価作成日	平成23年10月1日	評価結果市町村受理日	平成24年1月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai-gokouhyou.jp/kai-gosip/informationPublic.do?JCD=2172600609&SQD=320&PCD=2172600609
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成23年11月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

静かな田園風景に囲まれた伝統的な日本家屋という住み慣れた環境の中でそれぞれが出来ることを活かしのんびりと楽しく一日を過ごすことをサポートしていきます。家族が安心して生活を託され、利用者、スタッフがそれぞれあまり気を張らずに自然体で生活をする場でありたいと願っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

日々の生活から利用者ができることを行ってもらうことで「明るく楽しく生活できる」と職員は利用者の思いを汲み取り、できることをみつけようと努力しながらケアしている。古民家で和風のよさを残しつつ、自由に安全に動けるよう利用者の状態に合わせ、職員とともに意見を出し合い試行錯誤しながら改修している。家族や親族との信頼関係を築き医療関係者と連携し過去4例の看取り経験があり職員の大きな財産につながっている。管理者は職員と気軽に意見を言い合える関係を築いており、緊急な情報伝達はメールで一斉送信している。防災対策には安全に避難ができるよう事業所から三方向への避難誘導路を確保するため改修計画中で、利用者の安全面にも前向きに取り組んでいる。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着の意義をふまえた事業理念を作っている、入居者のADLや認知的な行動に対する現実的な問題もあり、ややずれが生じてるが実践に繋げる努力をしている。	理念に沿い、心身状態が低下傾向となっている全利用者に対し、職員は「やればできる」「できることをみつけよう」と、日々考えながらケアしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の方から野菜を頂いたり、庭仕事、畑仕事の助言、手伝いなど地域の人々と交流している。	近所の人から野菜の苗を頂いたり、地域の中学生在が介護体験に訪れている。自治会に加入し、用水路の掃除や草刈りには参加しているが、日常的な交流までには至っていない。	広大な敷地内の建物や庭の活用を、地域の自治会に呼びかける等してきっかけを作り、地域の方との交流を深めていただきたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々を優先的に雇用し、近隣住民とも超高齢社会や認知症を共に考える機会を持つよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を開催し、防災問題に関して地域の協力を得られるよう取り組んでいる。	入居者の現況報告をしたり、設備面の改善策等が参加者の民生委員や元区長より出されている。災害時の地域との連携や防災への取り組みについて話し合いが進んでいる。開催頻度が少なく隔月で開催されていない。	参加者は利用者や事業所を理解している人が多く、より緊密な関係が築けるよう隔月開催をしていただきたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町役場の福祉担当者と日常的に接触している。入居者やスタッフの状況について報告し相談しながら事業を進めている。	管理者が介護認定審査会委員をしており、行政担当者と顔を合わせる機会が多く、相談できる関係がある。日頃から避難誘導路の改修に係る環境整備に関する事など話しやすい関係を築き上げている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について日常的に話し合い、人権侵害や虐待の防止に努めている。	日頃から、管理者や職員で、身体拘束をしなくても介護できるよう話し合いをしている。鍵をかけない工夫や利用者の行動を見守り全職員が確認しながら、その都度安全に暮らせるよう介護方法を話し合い実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待行為について日常的に具体的に話し合い、虐待の防止に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は権利擁護について、外部識者や社会福祉士と話し合い学ぶ機会を日常的に持つよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、できるだけ多くの家族や関係者に対して十分に説明し、入居に際しての理解と納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族が管理者とできるだけ本音で話せるような関係作りに努めている。	管理者は、毎月領収書などを、家族に直接届け、入居者の状況報告をするとともに、意見を言い易い関係作りに努めている。面会時や様々な機会をみつけ、管理者や職員が声かけし、意見を聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は日常の細かい業務についてスタッフの意見を出来るだけ取り上げ、仕事にやりがい感を得られるように努めている。	職員は仕事を任せられ、よりよくなるよう意見を出し合い、試行錯誤しながら管理者に提案している。管理者は、主任がまとめた職員間の意見をできるだけ取り上げ運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は勤務状況や能力の向上具合を積極的に評価し、働きやすくやりがいのある職場環境をつくるために努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部で行われる講習会を紹介し、参加を呼びかけている。講習会の参加費用の一部を助成している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の市町村の勉強会、地域の福祉事業者やグループホーム協議会に参加し、意識とスキルの向上を目指して情報交換をしている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族より在宅時の生活状況や趣味、性向を聞き取りするなどして本人が安心して暮らしていける環境作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族親類の間の意見調整などを行い、家族全体を支えるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	急激な生活環境の変化を調整するため、ショートステイからの導入や系列デイサービスの応援など様々な経営資源を利用している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者が有している生活力を尊重した施設を目指しているが、現実的にはADLと危険性を考えると難しいのも事実である。引き続き利用者の生活力を見出すよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の意志を尊重し、家族と利用者を共に支えることを目指している。またともすれば断絶しがちな関係がよりよい方向に動き始めるきっかけ作りができればと考えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の理解を得ながら、時折、自宅にもどるなどすることを支援している。	系列の通所施設を利用していた利用者が多く、入居後も通所施設に遊びに行き、馴染みの利用者と一緒に外出している。家族が馴染みの美容院に連れて行ったり、自宅に帰ったりできるよう家族に働きかけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を注意深く観察し、お互いが生活の質を高めあえるような関係を築けるよう見守り、支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移動された方を時折訪問し、本人や家族を側面的に支援している。離れたことでお互い気付くこともあり、自らの在り方についてスタッフと話し、考え、見直している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人にとってできるだけ居心地のよい場所でありたいと考え、その実現に努めている。	自分の思いが伝えられなくなってきた利用者に対し、家族から今までの生活歴を聞き取り参考にしている。日々の生活場面から聞き出した何気ない言葉や選択肢にて、答えられるよう思いや意向を把握するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や意向を把握し、できるだけ暮らしやすい環境作りに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活を観察、記録し、スタッフ間で相談しながら生活力、ADLや生活の満足度の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	関係者で話し合いながら介護計画を作成している。	家族に「意見や要望・前回プランの評価・問題点」の書類を送付し意見や要望を聞いている。介護主任に意見を聞いて、管理者とケアマネジャーが作成し職員も計画を閲覧しているが、話し合いの場がもたれていない。	家族や担当職員も含め話し合いをして、よりよいケアプランを作成していただきたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活状況を観察記録し、管理者スタッフ間で相談協議し、日々の介護に実践しケアのレベルアップに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設デイの利用。外出レク。緊急時の病院送迎など、利用者や家族の状況、状況に応じて臨機応変に柔軟、迅速に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	季節毎の地域の行事に出来るだけ参加するよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	症状に応じて本人あるいは家族の希望する医療機関に受診できるよう支援している。施設かかりつけ医に定期的な受診をお願いし、利用者の状況を把握。日常的に見守って頂いている。	以前からのかかりつけ医は家族の協力を得て受診している。専門医療機関の受診を要する場合は、家族の協力を基本としているが緊急度や状況により職員が同行し、結果を家族に報告し情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設デいの看護職員のバックアップを受け、利用者の日々の健康的な生活を見守っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	揖斐厚生病院の入退院に際して、必要な生活情報を提供し、また適時、医師、看護師、MSWと面談し、相談している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	疾患が重篤となった場合、または重篤になると予想される場合、様々な予後の状態を想定して我々の出来る事と、家族側が必要な事柄についてそれぞれ具体的に説明相談している。	終末期のありかたについて、入居時に意向を確認している。家族・全職員・医療関係者と連携を図り過去4例の看取り経験がある。家族との信頼関係を築きながら、夜勤職員を2人にし事業所ができる限りのケアの実践のためチームで方針を話し合い支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	管理者は救急救命講習を複数回受講している。日々の様々な場面で救急救命法や急変時の対応について説明しスタッフのスキルアップに努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常時の避難方法について、日常的に考え話し合い定期的に避難訓練を行っている。地域の協力体制について協議中。	緊急時に即行動に移せるようにトイレ・スタッフルーム等に緊急連絡先の一覧表を掲示している。米・オムツ・医薬品等を備蓄し避難誘導路改修も計画中である。実施報告書・防災自己チェック表を作成し、避難時間を計測し避難訓練を実施しているが、夜間想定訓練がされていない。	独自の訓練を実施するなかで、環境整備にも取り組んでいるが、利用者の安全な避難誘導に向けて夜間想定した訓練を実施されたい。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の人格を尊重した対応をするよう努めている。	利用者の目線に合わせて理解しやすい言葉かけをしている。障子等で居室も外から見えないような工夫をしている。居室の入り口に名札は掲げず、個人情報が外部の目に触れない配慮をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者自身の思いを聞きだす為に努力している。思いが上手く表現できない場合は適切な選択的な質問を行い自己決定を促す努力をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自己決定を尊重し日々様々な暮らし方を利用者それぞれが実現できるよう努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	安全と健康に配慮し、適切な身だしなみができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在、調理できる利用者はいないが、干し茄子、干し大根作り、芋の皮むきなど下ごしらえや食材作りをスタッフと一緒に楽しんでいる。	事業所の畑でとれた季節の野菜や果実を使用し、食事やおやつを手作りしている。利用者のできる事を見つけて食材の下ごしらえ・準備・片付け・食卓拭き等を状態に合わせて職員と一緒にやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニュー、摂食量を管理、必要に応じて水分のインアウトを記録管理している。できるだけ分割して栄養分水分を摂取するよう留意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。毎晩入れ歯の洗浄を必要に応じて指示、見守り、全介助で行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれの排泄パターンと能力、状況に応じて適切な排泄介助を行っている。固定的に考えず様々な変化に応じて見直すよう努めている。	健康管理表と排泄記録にて排泄パターンを把握し、さりげない声かけで自立への支援をしている。利用者の状態に合わせ、おむつやパットの種類を変えて、トイレがある居室やポータブルトイレで対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬剤に出来るだけ頼らない自然な排便を目指している。食物繊維の多い食材の積極的な摂取、適度な運動、座位保持を行ったり漢方系のお茶などを服用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	安全な入浴が自立的に出来ると見込まれる場合は本人の希望で入浴して頂くようにしている。	週2回が基本であるが希望等により毎日入浴も可能である。また、希望で足浴を実施し、冷えやむくみの解消と共に安らぎの時間になっている。庭で採れたみかんの皮やゆずを入れる等季節を楽しむ工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人と同居者の安全で健康的な生活を優先しそれぞれの希望や生活習慣を配慮した就眠環境作りに努めている。それぞれによって消灯時間は異なっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者カルテに薬剤の説明書をファイルして薬剤の詳細について誰でもすぐ判るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者それぞれの生活歴や趣味趣向を家族との話しや日々の生活の中から見つけ出し生活に彩りをあたえる支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所の散歩、喫茶店訪問、入居者それぞれの思いのある場所(墓地、自宅近所)へのドライブなどを入居者の体力を考えながら行っている。	系列事業所の通所施設への外出や広い中庭で日向ぼっこをしながら気分転換をしている。車椅子の利用者や歩行が不安定な利用者が多く近隣への散歩や買い物の機会は少なく、縁側で過ごして外の空気を楽しんでいるが、日常的な外出までには至っていない。	利用者全体に身体能力が低下し、利用者の希望を聞きだすのも苦慮しており、職員体制から困難さもあるが、社会とのつながりが増える日常的な外出に期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	対象者を選び小銭を渡し、地域のスーパーなどで買い物をするなど金銭感覚の維持に努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を取り次いだり、挨拶状や年賀状を書くことを支援している(表書きはスタッフ)。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの生活環境を配慮した在来木造田舎造りの家屋を施設として利用しつつ、生活上の安全を考慮した改装を行い、また利用者の状況に応じて随時、造作改修を行い安全の維持と健康な生活環境の実現に努めている。	大きな窓と縁側から温かな日光が入り、中庭を眺めたり遠方の景色で四季を楽しんでいる。古民家の利点をそのまま活かし、家庭的で馴染みやすい雰囲気があり、利用者は穏やかな笑顔で居心地よく過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	伝統的な日本家屋は比較的死角の多く、利用者はそれぞれ『お気に入り』の場を見つけることができやすい。スタッフはそれぞれの居場所を尊重した介護に努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全が確保できる限り本人が慣れ親しんだ物品を持ち込み安らかに気持ちよく暮らせる様にと考えている。	利用者の希望で本を読んだり、家族からの情報でそれまでの生活に合わせた物品を置き、ベッドを使用せず布団で寝る配慮もしている。装飾品等を希望しない利用者には落ち着いた雰囲気で過ごせる配慮をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所、トイレへの経路などを入居者の視点を考え見やすく表示している。		